

あこがれが見つかった体育祭から後期へ！

校長 松澤 朗

天候にも恵まれた体育祭当日・・・「勝ち負けよりも大切なもの」を見つけて、進んでいる今こそ、後期の取り組みの意欲を高めるときです。どんな自分を育てていくのが大事な期間になります。より具体的な姿で自分の姿をイメージできると良いです。3年生は自分の進路や夢の実現に向けて、2年生は最上級生に向けて、1年生は先輩になる自分に向けて歩みます。そして学級解散式に向けて、学級づくりも自分たちの仲間と共に育てていく期間です。体育祭では、私もあこがれる場面一杯出会いました。子ども達の一生懸命さ・・・そして、本校職員の子どもと共に高まろうとする姿にも手前味噌ながら感動していました。何かしら、心に生徒も先生も素敵な貯金ができたものと信じています。そのことが後期の自分づくりに生かしていける財産です。



後期は、合唱祭に続いて70周年記念事業、そして進級、卒業とつながります。毎日毎日が充実する取り組みとなります。

現在は第4期「結（ゆい）」をキーワードにし、生活目標や学習目標を立てています。10月9日からは第5期の「躍（やく）」をキーワードにし、後期への飛躍を目標とします。

小泉中学校では、年間を8期に分けて生徒の目指す姿を具体的にしています。1期「礎4/6～5/6」、2期「学5/7～7/2」、3期「鍛7/3～8/28」、現在は「結」そして「躍」につながっています。一步一步子ども達は成長しています。

勉強はインターレスト

教育推進課

私がフランスへ行った際に出会った、シュベックという学生がいます。日本で偶然出会った、民俗学者のプルネルさんが、「〇日に、アンヴァリッドの塔の下に立っていたら、12時きっかりに、シュベックという学生がやってくるから、パリを案内してもらいなさい」と手配してくれたのです。シュベックは、ウィーンから勉強しに来ていた学生でした。私のへたくそな英語でも、何とか意思疎通ができました。

いろいろ案内してもらって、「勉強の時間だから、そろそろ帰らなきゃいけない」と言うので、「勉強はインポート（大切）だから、行きなさい」と別れたところ、しばらく行って、シュベックが戻ってきて、「勉強はインポートではなく、インターレスト（おもしろい）なんだ」と私に言いました。私はすぐに、「ああ、そうか。はずかしいことを言ったな」と思いました。そして、「ああ、勉強はインターレストなんだ」と深く思ったのです。

（安野光雅 著 「かんがえるこども」より）